

しやも やきど
軍鶏(八木戸)

昭和 16(1941)年 8 月 1 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



軍鶏は、江戸時代の初期、シャム(タイ)より渡来したマレー系統の鶏種で、その名称シャモは、シャムに由来するとされています。闘鶏に使用されることの多い鶏種です。

軍鶏の一品種である八木戸(ヤキド)は、三重県明和町の地名に由来し、黒色種のみです。闘鶏訓練時の当鶏(あてどり)として作出

されたものでしたが、現在は数も少なく貴重なため、闘鶏には使われていません。

軍鶏の主な生息地は、青森県、秋田県、千葉県、東京都、茨城県、高知県ですが、八木戸は三重県を主たる生息地とします。

じどり しょうじょうしゅ
地鶏(猩々種)

昭和 16(1941)年 1 月 27 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



地鶏の名称は、江戸時代に新来した鶏に対し、在来鶏を地鶏と呼び、区別したことに始まるとされ、猩々の他に赤笹、黄笹、白笹の内種があります。

猩々種は、赤笹種の羽色に変異を生じた個体を、飼育改良された、ものと考えられ、伊勢で多く飼育されています。肉垂(たれ)および耳朵(じだ)は鮮赤色、眼は赤栗色、足は黄色。尾は

車尾でないものが好ましいとされています。

主な生息地は、三重県、岐阜県、高知県です。

しょうこくけい
小国鶏

昭和 16(1941)年 1 月 27 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



小国鶏は平安期に遣唐使が、中国の昌国から持ち帰ったものと伝えられ、その名もここに由来します。白藤、五色、白色の内種があります。外面的の著しい特徴は、清朗な鳴声と長い尾、五色型の羽色、胸を張った気品に満ちた姿勢です。耳朶は赤色、足は黄色、尾は純黒で白斑のないもの、胸は黒一色で白理のないものが良いとされています。

主な生息地は、三重県、京都府、滋賀県です。

うこっけい
烏骨鶏

昭和 17(1942)年 7 月 21 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



江戸時代初期に中国より渡来し、寛永年間に保存改良されました。全身の羽毛の小羽枝がはなればなれで、絹糸のようになっています。白色と黒色の内種があります。肉や骨が黒いことも特徴の一つです。冠は球状で、しわがあります。毛冠は冠の後に叢生して、美しく一様に後方へ倒れます。中

国では、古来より妙薬として肉、卵が珍重されています。

主な生息地は三重県、大阪府、広島県、山口県、香川県です。

かわちやっこ

河内奴鶏

昭和 18(1943)年 8 月 24 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



三重県度会郡産の小地鶏ほどの大きさの小型鶏です。小地鶏と軍鶏が交雑してできたと考えられています。

冠の大きさは中くらいで、三枚冠となっていることが大きな特徴です。中央のものが特に大きく直立の単冠に近い形で固くつき、その両側に副冠があります。他の日本鶏には見られない

特殊な形です。内種は五色種のみです。

主な生息地は三重県です。